


概要報告書

2018 年度

事業種別	広域安全事業
団体名	一般社団法人 Colabo
事業名	虐待、性犯罪被害女子の保護・自立支援及びシェルター運営事業
<p>本事業では、シェルターの運営を通して、虐待や性暴力被害にあうなどした中高生世代の女子を支える活動を行なった。虐待や貧困、生活困窮や性暴力被害などさまざまな困難を抱えながら、孤立し、安心して過ごせる場所や支援に繋がらずにいる少女を発見し支える「一時シェルター」と、「中長期シェルター」を運営した。</p> <p>一時シェルターは、虐待や性的搾取の被害から逃げてくる少女だけでなく、「今日は家に母親の彼氏が来ていて帰れないから泊めて」「家ではゆっくりできないから仮眠したい」という中高生や10代～20代前半の女性たちが利用した。</p> <p>中長期シェルターは、児童養護施設や里親家庭を退所した後に住まいを失ったケースや、既存の福祉施設などでは受け入れ困難とされ、児童相談所からの保護委託で受け入れたケースもあった。</p> <p>以前当団体のシェルターを利用して、就職とともに一人暮らしを始めたが、就職した会社がブラック企業であり、心身ともに疲弊しシェルターに戻ってきた者もいた。軽度の知的障害や精神疾患、発達障害などの障害を抱えているケースや、中卒者、中学や高校への不登校者も多かった。シェルター利用後は児童福祉や女性福祉とつながり、制度や他機関の施設を利用して暮らす、一人暮らしを始める、医療や福祉制度を利用しながら生活を続けるなどしている。</p> <p>活動を続ける中で、シェルターが支援につながる拠点となるだけでなく、シェルターを利用したり対処した少女たちにとっての居場所ともなってきた。料理教室やクリスマス会、年末年始合宿なども行った。</p> <p>依然として、虐待や性暴力被害にあうなどした10代後半の少女たちに対する偏見は強く、公的制度や公的機関が機能しておらず、支援は不足しており、シェルター事業の必要性は増している。今後も活動や事例を通して受け皿の不足を訴え、活動への理解と支援の必要性を広めていきたい。</p>	
<p>※中長期シェルターの様子</p> 	

注) 上記の報告書は、助成対象団体が作成した報告書です。(公財)日工組社会安全研究財団では、記載された事業の内容等に関するお問合せには対応できませんのでご了承ください。